

1 地域や市民とともに歩む

• 相互発展・協働～スパイラルアップの関係構築を

財団の発展・成熟は市民・地域社会によって支えられてはじめて成り立つものである。ただ単に、市民や地域社会が、財団（行政）にニーズを伝え、それに財団が応えるという需要と供給の関係にあるだけでは、財団の発展や市民・地域社会との望ましい関係を築くことは難しいであろう。財団の成熟とともに、市民や地域社会も成熟し、「相互発展・協働」の関係を築くことにより、財団による文化的サービスの供給・提供が、次の需要・ニーズ（評価）につながり、さらなる文化的サービスの供給・提供につながっていく。

このように、財団が市民・地域社会とともに成熟し、スパイラルアップできるような関係を構築することが、財団の市民・地域社会に対するひとつの大きな使命と言えるだろう。

• 地域のナビゲーターとして

また、財団は、地域文化施設を核として、市民・NPO・企業等さまざまな分野の人々・団体が集い、交流し、情報発信するための地域のナビゲーターたるべきである。そうなることにより、地域や市民に求められ、なくてはならない存在となるだろう。

• 情報の公開と共有化を

このように、財団が市民や地域に求められ、市民や地域とともに歩むためには、積極的に財団情報を公開し、市民との情報の共有化を図るべきである。市民が財団情報に触れる機会が増えることにより、市民の財団に対する関心が増し、市民の参画を促し、市民の財団に対する愛着も生まれてくる。このように市民の信頼を受けて運営できる財団は、市民や地域との相互発展・協働が円滑に行われるだろう。

2 地域の創造と連携の視点を

• 次世代への使命を担う

地域文化施設は、現在の住民だけでなく、次世代の住民に引き継がれていくべき貴重な地域の財産である。また、地域文化施設が地域の文化芸術の中核となり、世代を超えて愛される地域の文化芸術の「広場」となるべき役割が期待される場所である。このためにも、財団は、現在だけでなく次世代にどのような使命（ミッション）を果たすべきかを考えていくべきである。そして財団が中核となって行政や住民を巻き込んで、地域の創造という視点で地域文化施設を積極的に活用していく努力をすべきである。

• 連携と「文化の森」づくり

芸術文化は、福祉や教育などと並んで行政分野の1セクションと捉えるのではなく、むしろ様々な分野の基礎となるべきものである。芸術文化という土壌は、福祉、教育など様々な分野の木々に栄養を与え、すくすく育った木々は森林環境を整え、その成果が土壌に還元されていく。より多くの栄養を含んだ土壌がさらなる木々に好影響を与えるという好循環を経ることにより、バランスがとれた「文化の森」を形成していく。

このように、他分野との連携を視野に入れ、良質な芸術文化を住民に提供することが、財団のひとつの大きな使命と言える。そのためには、アーティストの協力を得て、日頃芸術文化に触れる機会の少ない住民に対して、出張して芸術普及活動を行うアウトリーチ活動等を積極的に行うなど、様々な活動を通じて多くの分野との連携を強めるべきである。